



《北海道 今月のイベント》 あかびら火まつり (7月 赤平市)

—昭和47年3月、赤平市は産炭地の沈滞したムードを一掃するためにも、今まで各地区で行なっていた祭り（商工祭り、赤平神社祭り、赤間山祭り）を統一して、市民こそって参加する祭りにしようとの声が赤平市民の間から高まり、市もこれを受け入れ、市、商工会議所、地区労、農民協議会の代表約20人からなる統一市民祭実行委員会を設置し、統一市民祭を開くことを決め、「第1回赤平市民祭り」として実施された。昭和61年、これまでの見せる祭りから参加する祭りへとイメージチェンジ。近隣からも人を呼べ、更に市民が情熱の「火」を燃やして総出で参加出来るようにしたいということから、名称を第15回より「あかびら火まつり」と改めた。伝統の継承を続けつつも、進化し続けている。（赤平観光協会WEBサイトより抜粋）

INDEX

- 3 印刷燦燦
- 4~6 北海道印刷関連業協議会総会開催される
- 7 新電力紹介事業案内
- 8 団体扱給油事業案内
- 9 「北のふるさと事業承継支援ファンド」案内
- 10 HOPE2019パネルディスカッション・トークショーのお知らせ
- 10 業界のうごき

北海道印刷工業組合

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル

TEL.011-595-8071 / FAX.011-595-8072

[Website] <http://www.print.or.jp> [E-mail] info@print.or.jp



P-00023

この印刷物は、CSRに取り組み印刷会社が製作した印刷物です。

印刷 燦 燦

感謝の段階

一口に感謝と言っても、人によってとらえ方が違うとおもいますが、大まかに3つの段階があるようです。

恵まれていることに対しては、「ありがたい」と感じるのは、感謝の初級で、誰しもがうなずけると思います。

次に、目が見える、耳が聞こえる、口が利ける、手足が動く、空気が吸えるなど、日ごろ普通にしていることを「ありがたい」と思う心で、中級の感謝となります。

しかし、本当の感謝とは、苦しい環境に追い込まれたときに、その状況がよかったと思い、その状況になり、自分はようやく一人前になれる、ありがたいと思うことが上級の感謝と言われているようです。

確かにそう思うことは、高い境地だと思いますが、起きてくるすべてが必要だと思えることができれば、笑顔で受け止めることができると思います。

IoT、AI、5Gなどといった新技術の台頭により、第4次産業革命といわれる時代のなかで、さまざまなことが起きると予想されると思いますが、笑顔で受け止め、その時代に生きられることに感謝して過ごしていきたいものです。

北海道印刷工業組合理事・経営革新マーケティング委員長 **岡部信吾**

北陽ビジネスフォーム株式会社 代表取締役社長

先を見通せない時代の印刷関連産業を展望

北海道印刷関連業協議会総会開催される

北海道印刷関連業協議会令和元年度総会が、6月19日、札幌パークホテルで、理事・監事14人が出席して開催され、議案審議のあと、各業界の情報交換が行われた。

総 会は、平成30年度事業報告・収支決算、令和元年度事業計画・収支予算・会費額を原案どおり承認・決定し、所属団体・企業の役員改選・人事異動により交代した理事3人を承認した。

また、より濃密な情報交換を行うため会員の拡大を行うことを決定した。

つづいて、各団体の現況について情報交換が行われた。

■北海道印刷工業組合（西山 真 副理事長）

ロットの少ない仕事でも用紙が揃わなくなってきた。代替えでお客さんをお願いしているが、この状況がいつまで続くのか心配している。印刷をしていくなかで用紙が無いという状況がいつまで続くのか不安なところである。

■北海道印刷工業組合（大和繁樹 副理事長）

当社はシール印刷がメインになる。大型連休前に駆け込み需要がそれほどでもなかった割には明けてから5月後半から6月の数字があまり良くない状況である。受注量は前年対比微減である。原因がはっきりしたものが無いなかでの微減であるので、単に人口減少などでそういうことになっているのかと感じている。そうは言っても会社はやっていかなければならないので、事業領域を変える、得意先を本州に求めるなどをしていかなければならないと思っている。

■北海道洋紙同業会（森田伸介 会長）

今年初めに価格修正を印刷業の各社にお願いした。異例の短期で理解はいただいているかも知れないが価格転嫁をさせてもらった。その後、当然供給が通常に戻るという想定のもとにそういった動きになったと思うが、それが価格転嫁後も全く解消されずに今に至っている状況である。年度末は需要が盛り上がるが、その時に相当、弾不足で印刷業の各社に迷惑をかけた。今の製紙メーカーの動きは、国内の製紙メーカー各社は毎年6月に機械の整備で定期点検という時期に入っている。今は全く動いていないということはないが相当量の製紙メーカーの機械が停止している。7月から各製紙メーカーは通常の運転に入ることによってフル生産の状況に戻る見込みである。7月から動き出して早ければ8月、9月くらいから多少今の状態から解消に向かうのではと予測されているが、ただ、ここ数年続いている需要減少に併せ相当量の生産能力を削減していること、それと事故・トラブルの想定外のこともあり、それが未だ改善されていないこともあって、直ぐにバランスが取れるかどうか非常に不透明な状況である。したがって少なくとも秋口まで



はこの状況が続く。秋以降についても今のところ不透明であるが若干解消はされるが以前のような状態に戻るのには難しいというのが大方の予測である。今後、印刷需要が消費増税で大きく落ち込むことになると需要が減少して供給とバランスが合ってくることになるが、それでは仕事が少なくなるということなので良いのか悪いのかという話になる。そういったことでバランスが取れるのは我々としてもあまり歓迎できる話ではない。今暫くこの状態は続くが、流通としてはなるべく皆さんに迷惑をかけないように仕入れの工夫、普段ないルートからの仕入れ等を行ってなるべく安定供給に持っていきたい。

我々も印刷用紙の需要減少に伴って収益力が低下している。なかなか上がった分の上げ幅の吸収が自社でできる状況でないので皆さんに価格転嫁をお願いしたという状況である。今度は印刷用紙が終わって、情報用紙の価格修正に今、入っている。今月あるいは来月当たりの期日で今、交渉を続けている段階である。供給がこういう状態である以上、価格は高止まりの状況で推移される見通しが多いということで、なかなか価格の方もあまり低くならないという状況で推移するという大方の見方である。

物流問題は、前回も話したが、今、物流費の高騰が紙業界以外でもそれぞれの業界で問題になっている。我々も需要がそれなりにあって収益を維持していたが、それが減り続けて収益が悪化していることもあって物流費の上昇分を吸収できずにいるので、小口、多頻度配送、急配送を従来どおりのサービスが続けられるような状況でなくなってきた。非常に頭の痛い問題である。我々、卸としては急激なサービス低下を行うことは好ましくないので、お客様に丁寧な説明をし、少しずつ理解をいただきながら進めていきたい。この問題も見逃せない問題として顕在化してきている。

紙業界は、昨年の暮れから急激な変化のなかであり、非常に収益が厳しいなかでいろいろなことをお願いしないとならない。製紙メーカーも事業転換を急激に進めており、それぞれが違う方向に進んでいる。先々の予測が立て難い状況であるが我々も流通の使命を全うすべくこれからも努力をしていきたい。

■北海道印刷インキ同業会（吉野克宏 代表幹事）

2018年工業統計の印刷インキの生産量合計は、33万3,465トンで前年比97.5%で2.5%減少した。2017年の対前年比が98.6%で1.4%減少であったので、昨年はさらに生産量の減少が加速している。分野別では、オフ輪、枚葉等の平版インキ生産量は9万5,549トンで前年比94.7%で5.3%減少した。2017年の対前年比が93.9%で6.1%減少していたので、昨年は減少が少し鈍化した。新聞インキ生産量は3万6,567トンで前年比92.0%で8.0%減少した。2017年の対前年比が92.6%であったので0.6%減少率が進んでいる、樹脂凸版インキ（フレキソインキ）生産量は2万1,673トンで前年比98.8%で1.2%減少している。2017年の対前年比は100.3で前年を上回っていたので、この分野でも低迷している。これは推測であるがネット通販などで段ボール需要は増加していると報道されるなか、ネット向けは印刷される面積が減少しているからではないかと考えられる。グラビアインキ生産量は12万7,272トンで前年比100.7%で0.7%増加している。2017年の前年対比は101.3%であったので、樹脂凸版インキと同様に伸長率が鈍化している。

■一般社団法人日本グラフィックサービス工業会 北海道支部（渡辺辰美 支部長）

北海道の会社は紙も無いが仕事も無い。売上が全社5%くらい毎年下がっている。さらに材料費が10%くらい上がっている。紙だけでなくインキ、発送用の段ボールも上がっていて収益性が悪くなっている。それよりも売上自体が一番の問題である。JAGRAは印刷業のなかでも地元密着、拡印刷である。日印産連

主催の「じゃぱにゅうむ」でJAGRAの4社が発表した。日印産連がJAGRAに注目してきたことに驚いている。簡単に言えば自費出版をしようということである。北海道から帯広のソーゴー印刷が推薦されて発表した。この半年間のなかで大きく変わったのは働き方改革である。仕事が減っているので残業問題は解消できている。全国で話題になっているのが最低賃金である。10月に5%近く上がる。1,000円まで上げるとのことなので、仕事は無く売上が伸びないなか給料を上げていかなければならない。

■北海道グラフィックコミュニケーションズ工業組合（杉淵好美 理事長）

当社はデザインと新聞関係を主軸にしているので、昨年は売り上げは上がった。今年になって特に代理店関係のデザインの仕事がかなり寂しくなってきた。数字的に1～3月は前年比横ばいもしくは本の少しの増で思ったほど伸びなかった。そこで連休前は本当に期待していたが、なかなか無くて連休後はさっぱりである。多種多様な仕事をしている。紙だけでなくデザインを活かしくリエティブにサインージ、ネット、看板、シヨップを持ってTシャツ、画像処理などをやっている。いろいろな分野でやっているが意外とTシャツが伸びてきた。イベントそのものは少ないが、学校関係、役所関係が小さく伸びてきている。シヨップ部門の売上はかなり上がった。今年に入って代理店のイベントもさほど盛り上がっていない。三菱のメーカーの人が北海道はサインージが寂しいので攻めるという話をしていた。当社も東京を主体にサインージをやっているが北海道は予算的にもちよっとということである。ただ各社が北海道を狙っている。仙台の看板の会社もサインージで北海道に来ている。コンテンツがメインになるがサインージをやるように心がけている。この分野が伸びていく。看板業界と協力して伸ばしていきたい。電通は東京の業者をあてにして北海道の業者をそれほど使っていない。看板業も北海

道の業者をあまり使っていない。ハードは良いがソフトと設置になると東京の業者にかなわない。それを勉強していきたい。

組合員は、皆さん、まあまあということである。

■北海道製本工業組合（石田雅巳 副理事長）

今の状況を一言で言えば世の中から本が無くなってしまったという惨状である。当社においてゴールデンウィークは10連休になった。4月の中からGWモードに入って、それが明けて、実際その後2週間くらいは全く電話も来ないような状況で、やっと5月下旬から電話、問い合わせが来はじめて、今、少し仕事が動き始めた。改元の需要で一時的に盛り上がったこともあるが、当社は約2ヵ月開店休業状態が続いている。

平成初めの製本組合は約50社あった。30年経って今は10社である。それでも仕事が増えないというか減り続けている。組合に加盟していない業者も何社もある。組合として盛り上げていくために会員の増強を図っていく。未加入業者に声掛けを積極的に行っている。昨年 of 出版物の出荷額が、1996年に3兆円以上あったが、その半分になった。それに伴って業者数も減少している。我々の組合員は全て零細企業であるので、自社1社で考えると繁忙期に大きな仕事 came たら断らざるを得ない状況が発生する。組合の例会で、仕事を断っているようでは駄目である。自社で消化しきれないものは2~3社でコラレーションして受けていく取組をしていくことを話している。草の根の取組をしていくことが仕事の流出を防いでいく。仕事を断ることで得意先の印刷会社の内製化に拍車をかけることになる。それのみならず、タイトにしている道外の業者もいるので、道内の出版物の仕事の流出を未然に防ぐ草の根の活動をしている最中である。

製本も糊、ボール、クロス、塩ビなどすべての材料が平均で10%値上がりしている。売上は少なくとも5%は落ちている。となると15%くらいは収益を圧迫していることになる。コストアップ分はお客様にも理解いただいて適正な料金で取り組んでいきたい。本を増やすことを組合としても努力をしていくので、贈り物には図書カードを使っていたきたい。

■北海道シール印刷協同組合（渡辺俊二 理事長）

北海道シール組合は発足して45年になる。当時は43社いたが今は半数の22社である。シール組合は小さい会社が8割である。過去にシール印刷は儲かるという時代も一時はあったが、今は材料費・物流費の値上がり等で収益は少なくなっている。シール印刷の特徴としては第1次産業がお客様の形態としては多い。函館はイカの漁獲量はここ数年大きく減少している。そのなかで加工屋さんが案外頑張っている。本来であればバタバタ行くのかと思っていたが案外頑張っている。珍味関係は輸入で材料を調達しているが、大手でないところはイカの原料が無いので、かといって他の魚で加工するというのは設備的にも無理なので、

道・市から援助があるが頑張っている。水産・農業と未だに第1次産業が主力のお客様である。天候に左右される不安定な業界であるが皆さん頑張っている。会員増強はなかなか難しい。昔は特許で守られていて100%組合に入っていないければ仕事ができない業界であったが、特許が切れアウトサイダーでも仕事ができるようになってきている。

■北海道スクリーン・デジタル印刷協同組合（七條雅文 理事長）

景気が悪く、ここ数年ずうっと落ち込んでいるというのが現状で、経営環境はかなり厳しい。今年は、組合員14社すべてが、仕事が無いということで9連休以上をし、5月の売上はどうなるのかとかなり心配していたが、予想に反して前年5月に比べたら落ち込みがそれほどでもなく、全体として若干良かった。5月に入って仕事は途切れることなく順調にあるが、大きなまとまった仕事は殆どない。細かく、短納期の仕事が殆どであるが皆さん頑張っているが、6月の売上がどうなるのか不安な状況である。1ヵ月先が見通せないのが現状である。

組合員の増強は、最近入った若い組合員でも既に8年を経過しているの、殆ど老舗の組合員が頑張っている。

今、何が問題になっているかというスクリーン印刷は何にでも印刷できるが、業界全体の仕事量が減少しているなかで、ここ2年、資材・溶剤関係が5~8%値上にげなっている。その上がった分を製品単価に転嫁することが今の状況ではなかなか困難で、収益がさらに厳しくなる。

■北海道紙器段ボール箱工業組合（守田敏治 理事長）

7~8年前からインバウンドということで相当、賑わって、お土産を相当買っていただくということである。国内において北海道は特別なのか、皆さん北海道旅行をしたいという。それも何回も来たいという。来たら必ずお土産を買って帰る。お土産の箱は、紙器とそれを流通で動かす段ボール箱で、内装・外装箱は、そこそこ固い商売をさせていただいている。ただ、4~5年前までの勢いはない。北海道のメーカーというと3~4社が独占で大手に行っている。装置産業なのでそういうところにどんどん流れて行って、我々がやっているお土産品的な箱はそのワンランク下くらいのを手堅くやっている状況である。10連休は大変であった。その時期はお土産が相当売れるので、連休前だからといって印刷物と違ってかたちがあるので一度に納めることはできないので、4月24日くらいからシフトを組んで休みを取る工夫をした。

紙を扱っている業界は幸せである。特に紙はリサイクルの最高峰と言われているが、一方ではプラスチックは今、大問題になっている。紙を原料にやっていることに感謝しなければならない。

新電力紹介事業のご案内

北海道印刷工業組合は、組合員の経費削減の一助に資するため、さくらパートナーズ株式会社と連携して、「新電力紹介事業」を行います。

固定経費削減! 初期投資費用0円で
電気料金を削減!!

エネチェンでコストダウン

新電力(PPS)をご存知ですか?

電力の自由化に伴い、特定規模電気事業者(PPS)が自社発電施設で発電した電力又は一括調達した電力を既存の電力料金よりも低コストで供給する新しい電力購入の仕組みです。
例えば電気料金が月々30万円の法人様が5%削減できた場合、月々15,000円×12ヶ月で年間18万円のコストダウンになります。
しかも、導入コスト0円! 変わらない品質!かんたん手続き!

電気料金が安くなる理由

多様な電力調達!効率化による営業コスト削減!
特定規模電気事業者(PPS)は、一般電気事業者(北海道電力等)の送配電網を使用することにより、設備費や修繕費・人件費といったコストの高い部分を抑えることで、安い電気料金での電力供給を可能にしています。
新電力に切り替えることによって、施設によっては10%以上のコスト削減も期待できます。

安心安定供給をお約束

新電力サービスへの移行は、国も推進している事業であり、一般電気事業者(北海道電力)の送電網を利用して電気を供給しています。
これまでと同じく信頼性や品質は変わりません。
万が一の電力不足も、一般電気事業者とのバックアップ契約に基づき、安定して電気が送電されるシステムとなっております。

平日昼間に電力消費が集中する工場や
オフィスビル、学校など



時間帯や営業日、季節によって使用電力量が大きく変動する
イベントホール、競技場、ゴルフ場、結婚式場など

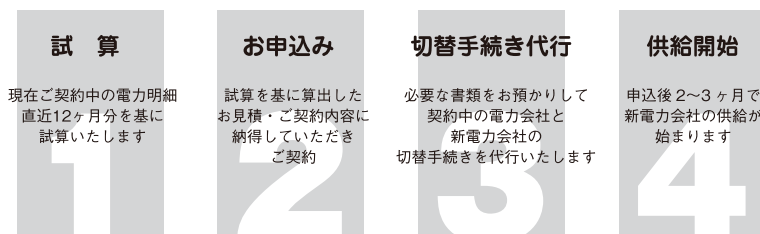
地域電力会社

基本料金	従量料金
燃料費調整額	再生可能エネルギー発電促進賦課金
太陽光発電促進付加金	

新電力会社

コスト削減	基本料金	従量料金
-------	------	------

新電力サービス導入のながれ



北海道印刷工業組合

新電力

【ご相談窓口】
さくらパートナーズ(株)

・080-6083-5628 ・011-213-1199
Mail: ibayashi@sakura-ps.co.jp

ガソリン・軽油価格が高騰中！「経費節減対策を」

北印工組独自の共済事業「団体扱給油事業」のご案内

北海道印刷工業組合は、独自の共済事業として、ガソリン・軽油が市価より廉価で購入できる「団体扱給油事業」を実施している。

北 海道印刷工業組合は、陸自総合協同組合と提携し、「団体扱給油事業」を実施している。

この団体扱給油事業は、ガソリンと軽油が対象で、組合員企業の自動車の給油を団体扱いで取り扱うことにより、市販のガソリン・軽油価格より廉価で購入できることから、組合員企業の経費削減の一助を目的としている。

また、従業員の自動車も対象になるので福利厚生の上にも利用できる。

価格基準は、道内一律価格となっている。

対象製品は、ハイオクガソリン、レギュラーガソリン、軽油の3種類となる。

給油先は、ENEOS、COSMO、出光の全道のガソリンスタンドとなり、同一の看板（メーカー）であれば、どのスタンドで給油しても契約価格で給油でき、代行

手数料は不要である。

価格は、資源エネルギー庁石油情報センターの当月全国平均価格からガソリンは4円引き（COSMOは5円引き）、軽油は同じく7円引き（同8円引き）となり、これが基準価格となる。

実際の販売価格は、この基準価格を下回る価格で取引が行われている。（下表参照）

給油方法は、給油カードを使用し、キュッシュレスで後払い（口座振替・振込み）となる。

また、利用明細が発行されるため車両管理にも役立てることができる。

この制度の利用にあたって、出資金10,000円（退会時に返還）と1法人1,200円の年会費が必要で、加入にあたっては与信審査がある。

団体扱給油事業（陸自総合協同組合）

基準価格 資源エネルギー庁石油情報センター

レギュラーガソリン（ENEOS・出光）

（単位：1リットル当たり価格）

年/月	北海道 平均価格 A	全 国 平均価格 B	陸自総合協同組合		利用差額 E D-A
			契約販売価格 C (全国平均-4.0円)※	販売実績価格 D	
2019/ 5	149.2	150.1	146.1	142.0	-7.2
2019/ 4	147.5	146.9	142.9	140.4	-7.1
2019/ 3	145.6	145.2	141.2	138.6	-7.0
2019/ 2	141.7	143.2	139.2	135.4	-6.3
2019/ 1	140.4	143.0	139.0	135.4	-5.0
2018/12	146.8	148.7	144.7	141.3	-5.5

※COSMOは、全国平均の5.0円引きになる。

軽油（ENEOS・出光）

（単位：1リットル当たり価格）

年/月	北海道 平均価格 A	全 国 平均価格 B	陸自総合協同組合		利用差額 E D-A
			契約販売価格 C (全国平均-7.0円)※	販売実績価格 D	
2019/ 5	132.5	130.7	123.7	121.9	-10.6
2019/ 4	130.9	127.7	120.7	119.8	-11.1
2019/ 3	128.9	126.1	119.1	114.7	-14.2
2019/ 2	125.3	124.4	117.4	114.7	-10.6
2019/ 1	124.0	124.0	117.0	111.4	-12.6
2018/12	130.0	129.0	122.0	113.9	-16.1

※COSMOは、全国平均の8.0円引きになる。

「北のふるさと事業承継支援ファンド」のご案内

公益財団法人北海道中小企業総合支援センターでは、北海道・道内6金融機関・北海道中小企業総合支援センターの出資によって組成された官民ファンドである「北のふるさと事業承継支援ファンド」を通じて、道内小規模企業者の円滑な親族外事業承継を支援しています。

◇ファンド概要

名称	北のふるさと事業承継支援ファンド 投資事業有限責任組合
ファンド規模	5億円
運営者	北海道中小企業総合支援センター
出資者	<ul style="list-style-type: none"> ■有限責任組合員 北海道、北洋銀行、北海道銀行、北海道信用金庫、旭川信用金庫、北見信用金庫、北央信用組合 ■無限責任組合員 北海道中小企業総合支援センター
投資対象	親族外経営者への事業承継を行う 小規模企業者 ^{※1} （法人）
投資上限額	3,000万円
投資内容	事業承継を行う先代事業者等からの株式の取得
申込期間	2017年3月31日～2021年3月31日
存続期間	2017年3月31日～2031年3月31日

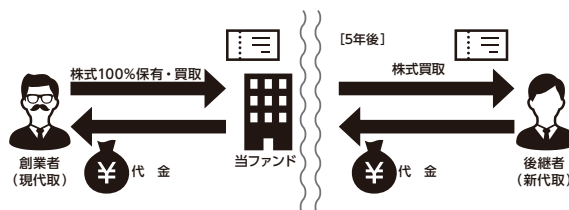
※1中小企業基本法第2条第5項に定める小規模企業者で、業種が製造業その他である場合は従業員20人以下、商業・サービス業である場合は従業員5人以下であるもの。

◇事業者がファンドを利用するメリット

- ①融資ではないため、金利負担が無く、毎月の返済は不要です。（投資期間終了後に一括で株式を買い取って頂く仕組みです。）
- ②株価評価費用はファンドが負担します。
- ③投資期間中は、ファンドが四半期ごとに行う事業モニタリングに基づいて、経営支援を受けられます。

◇ファンドの利用実例

第1号案件 〔南ジンワークス（札幌市東区）〕



〔ポイント〕

- 創業者（70代）から従業員（40代）への事業承継。
- 株式は創業者のみが保有しており、全株式をファンドが買取。
- 投資後、後継者は代表取締役役に就任。
- 投資期間は、資金蓄積の目的がたつ5年間とした。

◇主な投資対象要件（要件1のうちいずれかを満たし、かつ、要件2の全てを満たすこと）

要件1	(a)親族外の後継者が先代から株式等を引き継ぐ場合（同一企業内の承継） (b)事業継続が困難となった先代事業者等から株式等を引き継ぐ場合（他の企業への承継） ※いずれも親族を除く
要件2	(1)道内に本社を有する小規模企業者のうち、法人であること (2)後継者の意欲はあっても、株式の買取資金に占める自己資金の割合が25%未満で、必要な融資を受けられないこと (3)事業承継計画の提出があること (4)税務申告を5期以上実施し、直近の3年間、金融機関等への返済に遅延のないこと (5)最近2期の決算期において、経常利益が連続して赤字でないこと (6)直近の決算期において、債務超過でないこと及び繰越利益剰余金がマイナスでないこと

※上記の他にも要件があります。

詳細は以下までお問合せください。

◇お問い合わせ先

公益財団法人北海道中小企業総合支援センター 企業振興部 金融支援G 兜（かぶと）、住吉
TEL：011-232-2404 FAX：011-232-2011
[Mail]info@hsc.or.jp [URL]https://www.hsc.or.jp/consul/succession_fund/

HOPE2019

パネルディスカッション・トークショーのお知らせ

パネルディスカッション 9月6日(金) 10:30~12:00

テーマ：全印工連・CMYKプロジェクト～「大喜利印刷」の目指すもの～

CMYKプロジェクトメンバー

[座長] 滝澤新聞印刷株式会社 代表取締役 滝澤光正 氏 [ファシリテーター] Konel プロデューサー/代表取締役 出村光世 氏

[パネリスト] 弘和印刷株式会社 代表取締役 瀬田章弘 氏 / 有限会社篠原紙工 代表取締役 篠原慶丞 氏

全日本印刷工業組合連合会 産業戦略デザイン室で組織された実験的クリエイティブユニット「CMYK」では、印刷業界を中小企業主導で盛り上げるべく、Twitter上にある“欲しい”のつぶやきをヒントに、印刷廃材を再利用してユニークな製品を開発するプロジェクト「大喜利印刷」を展開しています。その目指すものとは何か?どのような効果が生まれたのか? 事業を立ち上げたメンバーが詳しく解説します。

トークショー 9月7日(土) 10:30~12:00

テーマ『デジタルトランスフォーメーションでブランドが変わる、ビジネスが変わる。』
～印刷メディア・印刷サービスが受け入れる変化と進む方向性は?～

[スピーカー] 株式会社グーフ 代表取締役 岡本幸憲 氏 / アウトブレインジャパン株式会社 顧問 本間 充 氏

社会全体の仕組みや価値観が、デジタルが“デキル”ことによって大きく・急速に変わり始め、イノベティブなマーケターはデジタルとフィジカルなメディアを掛け合わせるチャレンジで成果を出し始めています。印刷周辺技術も大きく進化している中、印刷メディアのプロは未来に向かってどのようなサービスを提供すべきなのだろうか?

本セッションでは、今、マーケティングの世界で何が起こり始めているのか? 印刷メディアとサービスがこの動きをどのように支え、新たな価値創出を実現すべきか? を実例を含め議論します。

会場は、いずれもアクセスサッポロ。詳細は、次号でお知らせします。

業 界 の う ご き

▶北海道シール印刷協組理事長に渡辺俊二氏

北海道シール印刷協同組合（札幌市中央区大通西18丁目2番8号 ファミール大通809）は、このたび、有原常貴理事長が任期満了により退任し、新しく理事長に渡辺俊二氏（北日本シール印刷株式会社・函館市）が就任した。

▶(有)日孔社社長に山口三喜氏

有限会社日孔社（札幌市東区北10条東2丁目3番18号 三上ビル）は、このたび、日野京子社長が代表取締役会長に就任し、新しく代表取締役社長に山口三喜氏が就任した。

▶株式会社SCREEN GPジャパン北海道営業所長に

山口典彦氏

株式会社SCREEN GPジャパン北海道営業所（札幌市北区北7条西7丁目 RICH7・7ビル）は、このたび、遠間英生所長に代わり新しく所長に山口典彦氏が就任した。



HOPE 2019

HOKKAIDO PRINT EXPO



Happy Industry

展示会

×

セミナー

12セッション



人々の暮らしを彩り 幸せを創る印刷産業

とき

2019年

9月6日金・7日土

10:00~17:00

ところ

アクセスサッポロ

札幌市白石区流通センター4丁目3番55号

●主催:HOPE実行委員会

北海道印刷工業組合・北海道グラフィックコミュニケーションズ工業組合・北海道製本工業組合・北海道フォーム印刷工業会
北海道紙器段ボール箱工業組合

●後援:経済産業省北海道経済産業局・北海道・札幌市・北海道中小企業団体中央会・札幌商工会議所・北海道中小企業家同友会

●協賛:(株)印刷出版研究所・(株)日本印刷新聞社・ニュープリンティング(株)